

令和2年8月7日

国立教育政策研究所 令和2年度教育研究公開シンポジウム 高度情報技術の進展に応じた教育革新～「学習評価」の充実 による教育システムの再構築：みんなで創る「評価の三角形」 ～の開催について

国立教育政策研究所では、この度、令和2年度教育研究公開シンポジウムを開催することとなりましたので、お知らせします。

1. 趣旨

新型コロナウイルス感染症を踏まえて、高度情報技術（AI やビッグデータ解析等）の進展に応じた教育革新をどう展望し、いかに実現していくことができるのか。本シンポジウムでは、生涯にわたり学習する基盤を培う初等中等学校教育に焦点を当て、高度情報技術の進展に応じた教育革新について議論を行います。学習支援の拡充、校務の効率化のほか、高度情報技術を活用することで得られる大きなインパクトの一つは、「学習評価」の充実です。それは、「ポストコロナ」に向けた教育システムの再構築のトリガー（起爆剤）になる可能性すら有しています。

そこで、本シンポジウムでは、米国学術研究会議が提言し世界的にも有名な「評価の三角形」という概念枠組みを参照し、高度情報技術を活用した「学習評価」の充実によって、いかに教育システムの再構築を行うべきか議論を行います。

2. 日時

令和2年9月15日（火） 13:00～16:30

3. 開催

オンライン開催

4. プログラム

趣旨説明

開会挨拶

パネル・ディスカッション「高度情報技術を活用した未来の教育と評価システム」

司会 中川 哲（文部科学省初等中等教育局「未来の学びコンソーシアム」

プロジェクト推進本部 本部長代理）

パネリスト

滝波 泰 （文部科学省初等中等教育局教育課程課長）

桐生 崇 （文部科学省初等中等教育局企画官・学びの先端技術活用推進室長）

浅原 寛子 （文部科学省総合教育政策局調査企画課学力調査室長）

白井 俊 （（独）大学入試センター試験研究統括補佐官（兼）試験企画部長）

基調講演 「テクノロジーが支援する評価システムの開発・実装に向けた示唆的な概念としての『評価の三角形』」

James Pellegrino (イリノイ大学シカゴ校特別教授) ※字幕付きビデオ放映

パネル・ディスカッション

「学習科学における評価とテクノロジー：『評価の三角形』の視点から」

パネリスト

益川 弘如 (聖心女子大学現代教養学部教育学科教授) (兼司会)

寺尾 尚大 ((独) 大学入試センター試験評価解析研究部門助教)

齊藤 萌木 (東京大学高大接続研究開発センター特任助教)

テクノロジーフェア

ビジョナリートーク「学習環境のデザインと評価を支えるテクノロジー」

喜連川 優 (大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所長)

安浦 寛人 (九州大学理事・副学長) ※ビデオ放映

上野 耕史 (国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 (併) 文部科学省初等中等教育局視学官)

奈須 正裕 (上智大学総合人間科学部教育学科教授)

白水 始 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官) (兼司会)

全体コメント

堀田 龍也 (東北大学大学院情報科学研究科教授・中央教育審議会委員)

閉会挨拶

5. 参加申込み

インターネット申込み：本研究所 HP (<https://www.nier.go.jp/>) → 「報道・イベント」
→ 「イベント情報」 → 国立教育政策研究所 令和2年度教育研究公開シンポジウム

6. 取材申込み

当日の取材を御希望の際は、社名・氏名・連絡先等を令和2年9月8日(火)12時までに、nier_sympo@nier.go.jpへメールにて御連絡くださるようお願いいたします。その際、撮影方法(録画又は写真)及びぶら下がり取材の希望等を確認させていただきます。

(お問合せ先)

国立教育政策研究所総務部研究支援課研究支援係

電話：03-6733-6813 (直通)